

人との距離を大切にした図書館運営と、 学生達が「考える」間のあるコミュニケーションを

花園大学
情報センター HUMIC
(図書館課) 課長
歴史博物館 事務室長

森 明博様

2014年に花園大学入職
就職課などを経て
2023年より情報センター
HUMIC(図書館課) 課長



1872年に妙心寺山内に創建された般若林を源流とし、2022年に創立150周年を迎えた花園大学。「禅的仏教精神による人格の陶冶」を建学の精神にかかげ、主体的に行動できる自立性・自律性を持った人材の育成を続けておられます。

キャンパスは周囲を住宅街に囲まれており、とても落ち着いた雰囲気の中、学生さんたちが勉学に励んでおられます。地域との共生も盛んで、図書館の開放をはじめ、地域連携教育センターを通じた座禅教室、さらには地域の方を対象にしたさまざまな講義が開催されているのも特長です。また、昨年には創立150周年を記念し、教室棟である返照館が新築リニューアル。令和の今も京都の地で、社会に貢献する人材を輩出し続けておられます。

今回は、そんな花園大学で図書館課課長を務めておられる森明博様に、お話を伺いました。

私 が課長を務めている図書館は、無聖館と呼ばれる建屋内にございます。図書館は花園大学学術情報ネットワーク(HUMIC)と呼ばれており、図書館以外にも情報システムセンター、パソコン教室などが入っています。図書館の入口付近にはPC端末がずらりと並んでおり、紙の本とネットワーク上の情報とが融合しているのが特長でもあります。また、仏教系大学ならではの特長として、墨跡や仏教学科の古書なども多く所蔵しており、海外の方が国際交流で来られた際などに、よく閲覧されています。また、同じ建屋には歴史博物館も入っており、私はその事務室長も兼務しています。

今年4月に委託会社を切り替え、これからの運用に期待

御社には今年の4月から図書館の委託をお願いしています。それまでは別の会社に図書館の運営受託をお願いしていま

したが、御社は人材サービスの会社ということもあって、人材のプールや教育体制により一層期待できるのではないかと感じたことが今回キャリアパワーさんへ委託をお願いすることとなった理由です。図書館のスペシャリストであることはもちろんですが、委託チームをまとめ、円滑な組織運営をしていただけた点を今回は重視しました。委託はまだ始まったばかりですが、今回の委託メンバーは図書館での経験が長い人が多く、統括の方もチームをまとめる自覚を持っておられるので、うまく回っていくのではないかと感じています。また、人材会社ならではのスタッフ育成やフォローについても期待をしています。

良いサービスを提供するためには、自分が楽しんでいることが必要です。楽しくないと、他人に何かを与えることはできません。朝起きて「さあ、今日も仕事に行こう!」と思えるような、職場づくりをまずは行っていただきたい。そ

のためには私も全面的に協力するつもりです。

実は前職は人材派遣業で、行政機関の委託先リーダーだったこともあります。ですので、今の委託リーダーさんの苦労や緊張感是我が事のように分かります（笑）

流れ作業のサービスでなく「考える間」を用意する

図書館サービスを実施してゆく中で、1点気を付けてもらいたいと思っていることがあります。それは、サービス業的な流れ作業を行わないで欲しいということです。例えば、何かの問い合わせがあったとして「答えは〇〇です。」と、できるだけ相手の手を煩わせないようにするのが一般的なサービスだと思うのですが、私たちはそこに「考える間」を持たせることを重要視しています。例えば、先日御社の統括さんから「持ち出し禁止図書を借りに来た人への対応ルールが必要ではないでしょうか」と相談を受けました。そもそも持ち出し禁止を持ち出す、という話なので、それをわざわざルール化すべきか、という疑問はあるのですが、もしルールを作るのであれば「なぜその本を借りたいのか?」「どの授業で必要なのか?」などを学生に考え、伝えさせるプロセスは設けてください、と話をしました。

また、最近社会人入学をされたご年配の新入生が私のところにお越しになられ、学内Wi-fiへの接続方法を聞いてくれたことがあります。説明したところ、その方が「これからも分からないことがあれば、ここに来ればいいんですね」と言われたので、「まずは自分で考え、調べてみてください。それでもダメならこちら

にお越してください。自分で考え、調べるプロセスも学びの機会なのでやってみませんか。」とお伝えしました。ネット検索やYouTubeの活用などお話すると納得してくださる場合がほとんどです。学生とのコミュニケーションにおいては、こうした「自分で考える」「問いかける」というワンクッションを大切にしていきたいと思っています。

いわゆる「サービス業」を生業としている方には違和感を持たれるかもしれませんが、こうしたやり方で学生に接することで、相手が考えるきっかけを作り、それを通じてやりとりが発生してゆく。それを積み重ねることで相互理解が深まると考えます。また、委託現場で働くスタッフさんには、ひとつひとつの対話を丁寧に行っていたいただきたいです。例えば、先生方と接するときに、その先生の専門分野に興味を持ってお伺いしてみるなど、一見業務とは直接関係ないような事でもやりとりをしてほしい。たとえ提供サービスと直接関係がなかったとしても、自分の好きなことや得意分野について聞かれて嫌な気になる人はいませんし、そうしたやりとりを通して互いの距離を縮めていっていただきたいと思います。

私も、今回の委託先変更を機に、統括の方と歩いているときに顔見知りの学生を見かけたら、こちらから気さくに話しかけることを意識してやっています。最初はびっくりしていたようですが、うちの大学はこういう雰囲気なんだよ、ということが伝わってくればうれしいです。

実際、学生と教職員の関係はとても近く、学生、教員、職員がいっしょになって立ち話をしているのは珍しい光景ではありません。これは本学の特長の一つなのかもしれないですね。

今後はコア業務と委託業務の見直しも検討したい

本学では現在、図書館運営を全面的に外部委託しています。本来はコア業務を職員が行い、周辺業務を外に出す形がよいとは思っているのですが、専任職員が私一人で、図書館業務に深く精通しているわけではないので、そうした意味ではやむを得ない形の委託でもあります。ですので、いずれは職員が担う部分と、委託・派遣と業務によって適正に切り分けていくことが今後の課題です。

今後ますます多忙に。休日は反動で引きこもり気味です

私は今は図書館を中心にしていますが、今後は情報システムの比重も高くなりそうです。昨今、教育機関もハッキングの対象になることも多く、セキュリティの担保はこれまで以上に重要になっています。システムについては外部業者さんとも連携していますが、技術進歩や変化がとても速く、次々と情報や知識が必要となってくるので、ますます忙しくなりそうです。

人に会う機会の多い仕事ですので、その反動で休日は誰にも会わない時間を持ちたいと思うこともあります。家では読書をして過ごすことが多いですね。昔から読書は好きで、今でも年間90冊ほどは読んでいます。ジャンルは問わず、ある本を読んで興味を持った事柄について、別の本を読む・・・という形で知識を広げています。それと、前職で社内公用語が英語になったことがあった流れで、英語の勉強も続けています。

■ Information

「学びの図書館紀行」 国際漫画ミュージアム



日 本全国、世界中には素晴らしい図書館が多く存在しています。キャリアパワーでは、各地の図書館取材し、「学びの図書館紀行」としてサイトに公開中。今回は、一般的な図書館とは少し趣を異にする「京都国際漫画ミュージアム」にお邪魔しました。日々、目先のお仕事に追われ、また時に改善の糸口がなかなか見出せない時、この紀行を一読していただき業務の取組への何かヒントになればと願っております。

詳細はこちらからご覧ください▶
<https://154450.com/contents/manabi>



ネパールから秋田の地へ移住、キャリアパワーで働きながら日本と世界をつなぐ活動を行っています



阿部 ラスミンさん
Rashmin Abe
秋田県内 図書館スタッフ
2018年～

ネ パールのカトマンズ出身で秋田県出身の夫と出会い、来日しました。秋田県へ移り住み、現在は、図書館スタッフとして働いています。

図書館スタッフとして、日々、館内の業務を担当しています。具体的には、カウンターサービスを始め、図書や雑誌の目録作業、利用者のレファレンス対応に至るまで幅広い業務を行っています。2014年から図書館で働きだし、キャリアパワーのスタッフとなったのは2018年になりますので、現在で5年目となります。

秋田の地で日本と世界をつなぐ様々な活動に参加

図書館スタッフの業務以外にも秋田国際交流センターで通訳・翻訳多文化サポーターとして活動を行っています。国際協力隊に興味を持つ高校生を対象としたインターンシップで、異文化や多文化について紹介する授業を受け持っています。また、秋田ロータリークラブでは、母国ネパールへ教育支援をおこなう“海を超えてヒマラヤまで”という活動を行っており、ネパールの村に住む子供たちへ、学用品と日本の子供たちが6年間使用したランドセルを寄付したりしています。

国際的な活動の中で特に印象に残っていることは、UNESCOスピーチコンテストに参加したことです。スピーチでは、自然豊かで、食材が美味しい秋田の魅力を“秋田に来てよかった”というテーマで話しましたが、来日してからの経験や文化の違いについて感じたことを振り返る良い機会となりました。また、来日し、日本語を勉強する中で、たくさんのサポートを受けた経験から、母国と日本をつなげる教育支援活動をこれからも続けてゆきたいという思いをスピーチで伝えることができました。

誰かの役に立つということ

私は“みんながみんなのために”という言葉が大好きです。誰かの役に立つ大切

さは、秋田という異国の地に住んでより実感しています。

今働いている職場では、他のメンバーが困っている際に、自信をもって業務を教えることができる存在になってゆきたいです。また、現在も行っている国際活動については、これからも日本と母国そして世界をつなぐ架け橋となり、人の役に立ちたいと考えています。



■ Seminar Information

ご登録者を対象に、オンラインセミナーを定期開催しています

これまでの開催テーマ

EXCEL講座

ショートカット、置換、COUNTIF、IF、書式設定
条件付き書式、VlookUp
グラフ作成
ピボットテーブル
マクロの基本講座
ブルダウリスト
印刷設定、ブックの保護、パスワードのかけ方
オートフィルタ（並び替えと抽出）
知っている便利な関数
(ROUND/MAX/SUMIF など)

WORD講座

文字入力、書式設定、印刷設定
文章レイアウト（段組み/インデント/箇条書き）
表作成、差し込み印刷

PowerPoint講座

画面切り替え、アニメーション、スライドショー

いまさら聞けないシリーズ

Zoom（基本操作、アカウント設定）
LINE、Instagram、Twitter、YouTube
ビジネスマナー、電話応対など

毎

週火曜日と木曜日の週2回、登録スタッフの皆様に向けてオンラインセミナーを開催しております。内容は業務に関連するソフト操作などが中心。ご自身のスキルアップに、お持ちの知識のおさらいに、ぜひご活用ください。開催情報はメールにて随時お知らせ。もちろん参加無料ですのでお気軽にご参加ください。

詳細はメールでお知らせ
参加無料
ご予約不要



Information



一人親家庭に ランドセルを寄贈

新 学期に合わせ、一人親家庭にランドセルを寄贈しました。京都市ひとり親家庭支援センター「ゆめあす」様を通じ、ひとり親家庭の新1年生の皆さまに手渡しで寄贈。同時にプロカメラマンによる一人一人の記念撮影も行われ、参加された皆さんは、思わぬサプライズに喜んでおられました。小学校6年間でたくさん学び、楽しい思い出を作っていただければと思います。

Information

関西盲導犬協会に寄付を実施

キ ヤリアパワーのグループ会社である日本ケイテムでは、働くスタッフさんや社員有志が毎月50円ずつを積み立て、盲導犬育成をサポートする「KEITEM May 1 運動」の活動を行っています。今回、京都府亀岡市にある関西盲導犬協会様にお伺いし、200,000円の寄付を行いました。盲導犬育成のための費用の大半は、寄付によって賄われているのが現状です。盲導犬育成をはじめ、盲導犬を必要とする方々の力になれるよう、私共キャリアグループでは引き続き支援活動をおこなってゆきます。



Information



ウクライナ避難民を受け入れ

キ ヤリアグループでは、運営するホテルを活用し、ウクライナからの避難民を受け入れています。今回、女性2名を受け入れ、ホテルで一定期間滞在していただきました。お二人は日本語学校に通われ、現在は京都市の市営住宅に移られています。これからさまざまな形での支援活動を行って参ります。

Red Drops

ご存じですか？ キャリアパワーのあかいドロップ

「This We Believe…」わたしたちキャリアパワーの信じるところ。その想いから生まれた小さな冊子が「キャリアパワーのあかいドロップ」です。出会うことができたすべてのスタッフの皆様の方に、私たちの想いをお伝えしたい。そして、一人でも多くの方の心に、その想いを留めてほしい。ずっと変わらぬ想いでお届けしています。ぜひご愛読ください。



ご希望の方に配布中です
☎ 0120-288-450 info@careerpower.co.jp

■ Topics

新たに受託運営を開始しました【国立国会図書館東京本館】

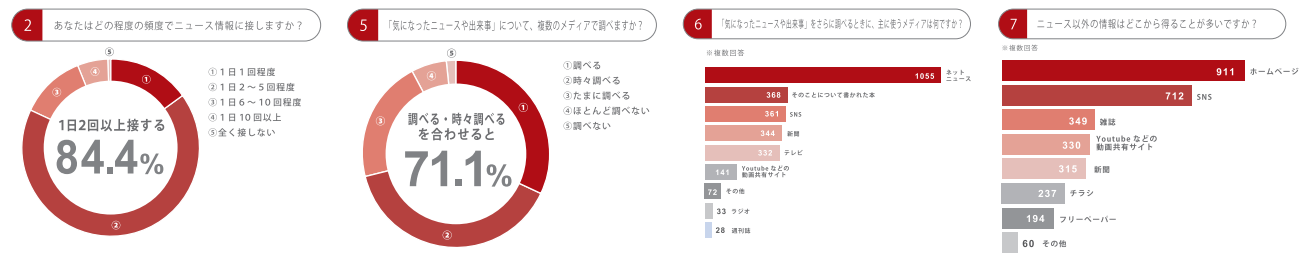


2 023年4月より、約150名のスタッフで、国立国会図書館東京本館における、資料出納業務を受託運営開始しました。図書や雑誌の数の多さもさることながら、新聞や地図といった資料の扱いも多いので、広い書庫の中での作業を覚えるのも大変です。来館される利用者の数も日によってばらつきが大きく、利用者の多い日は出納作業も立て込みますが、各チームの責任者を中心に、新人スタッフも一生懸命業務に取り組んでいます。私自身、新しい業務を覚えることはもちろん、業務に従事するスタッフの人数も多いので、大変なことも多いですが、日本のすべての出版物を保存して提供する、というこの図書館の重要な役割にチームが携わっていることをとても誇りに思っています。チーム全員、力を合わせて頑張ります！

キャリアパワー東京営業部 国立国会図書館東京本館担当 田中稔之

■ Information

情報取得についてのアンケートを実施しました



キ ヤリアグループ総合研究所では、当社登録スタッフおよび一般の方（無作為）を対象に、情報取得についてのアンケートを2023年2～3月にWEB形式で実施、1502名（男性13%、女性87%）から回答を得ました。情報の入手先や、信頼度、使い方などについての状況をまとめています。

くわしい分析結果を右記QRコードからご覧いただけます▶ https://www.careerpower.co.jp/topics/2023/03/28/topics230328_001/



法令順守委員会

キャリアパワーは、労働者派遣法や労働基準法など各種労働法令を遵守し、常に適正な事業運営を果たすために、社内に法令遵守委員会を設置しています。定期的に派遣先を巡回、また社内監査を行ないながら、派遣契約内容を改めて見直し、法令の遵守が出来ているかの再チェックを行なっています。また、全社員に対して法令知識向上とコンプライアンス遵守の意識強化のために、定期的に研修会や勉強会を実施し、コンプライアンスの課題解決や事前防止の徹底を図っています。遵法精神を貫くことで、当社で働く派遣労働者、そして人材派遣を利用される全ての派遣先企業様に、よりいっそう満足して頂ける様、活動を行なってまいります。

派遣コンプライアンスに関する問い合わせ先 **TEL 075-341-2929** **MAIL support@careerpower.co.jp**

キャリアパワー各支社へは ☎ 0120-154-450 にお気軽にお問い合わせください

東 京	〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-7-2 東京サンケイビル15F	TEL 03-6895-2929	FAX 03-6895-2911	発行 株式会社 キャリアパワー
大 阪	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 1-12-17 梅田スクエアビルディング2F	TEL 06-6346-2929	FAX 06-6345-1268	
名 古 屋	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅 3-25-9 堀内ビル8F	TEL 052-563-2929	FAX 052-563-3511	企画 / 制作 株式会社 キャリアクリエイト
京 都	〒600-8216 京都府京都市下京区堀小路通烏丸西入東堀小路町 843-2 日本生命京都ヤサカビル4F	TEL 075-341-2929	FAX 075-341-3828	
滋 賀	〒525-0037 滋賀県草津市西大路町 2-5 Nビル5F	TEL 077-516-2929	FAX 077-516-2930	2023.6.1 発行
システムセンター	〒600-8269 京都府京都市下京区七条通堀川西入西八百屋町160	TEL 075-344-6776	FAX 75-344-6780	

Vol.XXII 大学図書館と DX

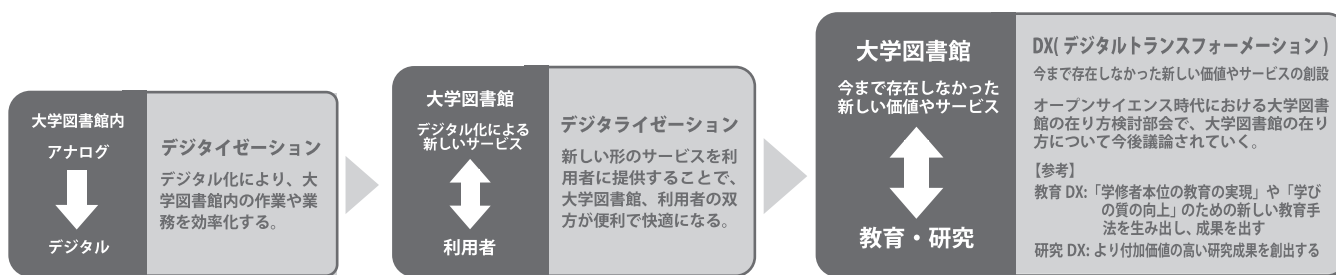


和4年2月16日に第1回オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会が開催され、4月に第2回、6月に第3回、7月に第4回が開催されました。いよいよ大学図書館にもDX(デジタルトランスフォーメーション)の波が押し寄せてきました。

皆さんは、DXとはどのような意味かご存じでしょうか。スウェーデン、ウメオ大学のエリック・ストルターマン教授が2004年に最初に提唱した言葉で、原文では、"The digital transformation can be understood as the changes that the digital technology causes or influences in all aspects of human life."と表現されています。簡単に訳すと「デジタル技術の劇的な変化は、人間の社会のあらゆる面に影響を及ぼす変化と理解できる」という内容になります。ここから、「digital transformation (DX)」が「デジタル技術の変化が社会を変容させる」という衝撃的な言葉として、世界に広まり、「新しい価値の創設」「今まで存在しなかったサービスの創設」「組織や業界、社会を変容させるもの」という現在のDXとして定着していきました。つまり、DXとは、デジタル技術を活用した今まで存在したことがない新しいもので、かつ、社会を変容を及ぼすもの、ということになります。とはいえ、何も無い状態で新しいものを創設しようとしても成功させることは難しいため、糸口を見つける必要があります。そこで、大学図書館にとって重要な教育DXと研究DXについて考えてみたいと思います。

大学における教育DXについて、文部科学省のデジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン(Plus-DX)によると“デジタル技術を積極的に取り入れ、「学修者本位の教育の実現」、「学びの質の向上」に資するための取組における環境を整備し、ポストコロナ時代の高等教育における教育手法の具体化を図り、その成果の普及を図ること”という目標を見つけることができます。この目標を達成するための「デジタル技術を活用した新しいもの」が大学における教育DXと言えるでしょう。また、研究におけるDXについては、内閣府ホームページ内の研究DXのページに“研究DXを通じてより付加価値の高い研究成果を創出するため”との目標があることから、それを達成するための「デジタル技術を活用した新しいもの」が研究におけるDXと位置付けられます。先に述べたオープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会では、教育DXや研究DXに関わる大学図書館の在り方についても検討される予定ですので、そちらにも注視が必要です。

DXの前段階として、デジタイゼーション、デジタライゼーションが存在します。デジタイゼーションは、いわゆるデジタル化を指します。アナログなものをデータ化する、手作業でしていたPC操作を自動化する、等が該当します。このデジタル化によって、作業や業務の効率化がなされます。デジタライゼーションは、デジタル化したことにより、従来のアナログで行っていたサービスを新しい形で提供することが該当します。このサービスにより、大学図書館だけではなく、利用者にとっても、利便性や快適性の向上といった効果を得ることができます。これらのデジタイゼーションやデジタライゼーションをDXだと誤解する場面をしばしば見かけますが、残念ながら、DXとは従来のサービスをデジタル化したものを表すのではなく、デジタル技術によって今まで存在しなかった新しい価値やサービスを創設し、社会を変容させることです。



では、実際にはどのような新しい価値やサービスが創設されているのでしょうか。大学図書館研究会から発行されている『大学の図書館』第40巻第5号の特集記事「それぞれのDX」(2021年5月)でいくつかの大学図書館でのDX事例が報告されています。また、DXに限定されていませんが、国立大学協会から発行されている『国立大学』第60号の特集記事「進化し続ける大学図書館」(2021年7月)では、さまざまな大学図書館の新しい取組が紹介されています。どちらもウェブ上で公開されていますので、ぜひご確認ください。

今後、皆さんの図書館でもDXに着手していくことになると思いますが、図書館には利用者の秘密を守る義務があります。また、個人情報の保護にも努めなければなりません。それらをしっかりと守りながら新しい価値やサービスを生み出すには、多くのハードルを乗り越えなければならないでしょう。困難な道のりですが、これからまだ誰も見たことのない新しい図書館の形、そして多くの新しい可能性に出会えると思うと、とても楽しみです。

i 文部科学省 オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu29/004/index.html

iii 文部科学省 デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sankangaku/1413155_00003.htm

v 大学図書館研究会『大学の図書館』
<https://daitoken.com/publication/0A.html#kaiho>

ii Erik Stolterman & Anna Croon Fors "Information Technology and the Good Life.", Information Systems Research, pp.687-692 (2004)

iv 内閣府 研究DX (デジタル・トランスフォーメーション)
<https://www8.cao.go.jp/cstp/kenkyudx.html>

vi 国立大学協会『国立大学：国大協広報誌：quarterly report』
<https://www.janu.jp/janu/report/koho/>